



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 119  
November  
2019



IUHW奨学金授与式にて

# 第9回 国際医療福祉大学学会学術大会 2019年 IUHW奨学金 授与式

写真特集

## 大学祭

(福岡・大川キャンパス)

### 海外保健福祉事情

江戸の歴史感じた赤坂氷川祭

台風15号・19号による被災地に塩谷病院DMAT派遣

第9回国際医療福祉大学学会 学術大会を開催

「IUHW 四半世紀の歩みと今後の展望」をメインテーマにした第9回国際医療福祉大学学会学術大会を9月15、16両日、東京赤坂キャンパスで開いた。

開会式では、学芸長の太友邦学長が「さまざまな発表や講演に刺激を受けるとともに、ポスターセッションでは、若い人たちのひらめきを見聞きして、大学全体としての研究レベルの向上をめざす有意義な学術大会にしていく」とあいさつした。

大会長を務める黒澤和生小田原保健医療学部長は「1995年に日本初の医療福祉の総合大学として開学した本学は、四半世紀を迎え、現在6キャンパスに医学部を含む10学部24学科に発展、来年は国際医療福祉大学成田病院が開院して6附属病院体制となるまでになり、医療福祉専門職の学術の拠点として大きな役割を担っている」と今大会の意義を述べた。

「未来医療の展望」をサブテーマにした1日目は、宮崎勝副学長(国際医療福祉大学成田病院準備委員長)が「成田新病院における未来医療の展開」と題して特別講演。来春開院する成田病院について、「国内のみならず海外から多くの患者様を迎えるべく



●開会式であいさつする太友邦学長



●黒澤和生大会長

最先端で高品質の医療が提供できるような世界基準のハブ病院をめざしている」と特長を説明した。そのうえで、「目覚ましい技術革新の波は医療の世界にも大きな変革をもたらしている。成田新病院は世界に先駆けて、その未来医療の展開を世界の魁となるべく準備をする」と決意を述べた。

学術大会優秀演題のうち8人による口述発表に続き、「未来研究支援センターの役割と未来医療の展望」をテーマにした講演や外部講師による招聘講演、優秀演題表彰式などが行われた。

招聘講演で瀧口登志夫キャノンメディカルシステムズ代表取締役社長は「医療機器における未来医療の展望」をテーマに、「高齢化が進化するなかで、医療費の増加は国家財政に負荷を与えることを胸に刻んで技術開発する」との考えを示した。また、「地域包括ケア時代における『看護の将来ビジョン』」のち、暮らして、尊厳をまもり支える看護」をテーマに講演した福井トシ子日本看護協会会長は、超高齢化社会のなかで「第一線にいる医療専門職の看護師は状態の変化を即座に察知し、看護をすることが重要だ」と述べた。

2日目のサブテーマは「メディカルスタッフとチーム医療の展望」。午前中に行われたポスターセッションには324件が寄せられ、ポスターを前に多くの教員による発表とともに、デイスカッションが行われた。



●河上裕医学部長



●宮崎勝副学長



●優秀演題受賞者



●福井トシ子日本看護協会会長



●瀧口登志夫キャノンメディカルシステムズ社長



●ポスターセッション

「メディカルスタッフとチーム医療の展望」

ポスターセッション

特別講演II

「がん免疫療法と腫瘍免疫学の最前線」

河上裕 国際医療福祉大学医学部長

(座長・黒澤和生 国際医療福祉大学医学部長)

「地域包括ケア時代における『看護の将来ビジョン』」のち、暮らして、尊厳をまもり支える看護」

福井トシ子 日本看護協会会長

益財団法人日本看護協会会長

(座長・荒木田美香 国際医療福祉大学小田原保健医療学部長・看護学科長)

株式会社代表取締役社長

(座長・内蔵啓幸 国際医療福祉大学保健医療学部放射線・情報科学科長)

「医療機器における未来医療の展望」

瀧口登志夫 キャノンメディカルシステムズ社長

午後には、河上裕医学部長が「がん免疫療法と腫瘍免疫学の最前線」をテーマに特別講演し、「産官学連携を強化して、これからの研究を日本で進めることが大変重要であり、がん免疫研究はこれからが正念場」と強調。「本学グループは多くの病院があるので、たくさんさんの臨床検体を集め、大学のネットワークを構築して、新たな成果をつくり出していきたい」と抱負を述べた。

学会総会に引き続き、最後にシンポジウム「これからのチーム医療について」を行った。

「学術大会プログラム」

◆メインテーマ

「IUHW 四半世紀の歩みと今後の展望」

◆1日目 サブテーマ

「未来医療の展望」

特別講演I

「成田新病院における未来医療の展開」

宮崎勝 国際医療福祉大学副学長・国際医療福祉大学成田病院準備委員長

(座長・田中秀一 国際医療福祉大学医療福祉学部長)

口述発表I

(座長・城間将江 国際医療福祉大学副学院長・成田保健医療学部長)

「健康なまちづくりの構築に向けた参加型習プログラムの開発」地域特性と地域住民の「ニーズ」

梅本彰子 国際医療福祉大学福岡看護学部看護学科

「赤外線センサを用いた上肢関節位置覚評価システムの開発」健常者と健常発達児

平松達雄 国際医療福祉大学未来研究支援センター教授

「における検証」

糸数昌史 国際医療福祉大学成田保健医療学部理学療法学科

「アルツハイマー病の語の意味記憶について」語流暢性課題からの検討」

大内田博文 国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科

「視覚特性が読みの過程に及ぼす影響」若年者における読み書き能力と調整機能との関連」

岡野真弓 国際医療福祉大学保健医療学部視機能療法学科

口述発表II

(座長・谷口敬道 国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科長)

「局所進行膵臓癌のPET画像における腫瘍内不均一性による新たながん診断法の開発」評価」

三輪建太 国際医療福祉大学保健医療学部放射線・情報科学科

「NK細胞のADCC活性および抗体医薬品の薬理効果に影響する遺伝子多型の解析」

大星航 国際医療福祉大学成田保健医療学部医学検査学科

「モルヒネ誘発鎮痛作用の耐性形成に対するIL-31の併用効果」

辻稔 国際医療福祉大学薬学部薬学科

「Physical exercise improves self-reported life satisfaction, vitality and alertness in first-year medical students」

Takeshi Nishii, Cosme 国際医療福祉大学医学部総合教育センター

「未来研究支援センターの役割と未来医療の展望」

平松達雄 国際医療福祉大学未来研究支援センター教授

International University of Health and Welfare IUHW vol.119 November 2019 CONTENTS

Table of contents listing page numbers and titles for various articles and sections, including 'トピックス', '大学祭', and '写真特集'.

### 2019年度 I U H W 奨学金授与式

アジア各国からのフルスカラシップの奨学生に対する2019年度IUHW奨学金授与式が10月11日、東京赤坂キャンパスで行われ、6カ国57人(ベトナム22人、モンゴル、ミャンマー各12人、カンボジア、インドネシア各5人、ラオス1人)に証明書が授与された。

高木邦格理事長は「この奨学金は、日本人学生や日本人スタッフが働いた成果を還元している。世界の医療・福祉水準を上げるために頑張ってもらいたい」と激励した。また、大友邦学長は「日本人学生にとっても、留学生の皆さんと接することが財産になる。私もアジアの国に行き勉強になった。学業の発展を祈ります」と述べた。



式には、駐日大使館の代表やアジア婦人友好会の役員も出席。インドネシアのTri Purnanaga公使は「留学生たちは、この機会を有効に生かしてほしい」、アジア婦人友好会の高村治子会長は「学びたいという気持ちと志を持つ皆さんが学びの場を持てたことをお慶び申し上げます。生涯忘れることなく、心を育て、友情、信頼を育むことがアジアの将来の平和につながります」と祝辞を述べた。



### 日光へ留学生秋の遠足

大田原キャンパス恒例の「留学生秋の遠足」が9月28日、世界遺産「日光東照宮」で有名な栃木県日光市で行われた。同市を訪れるのは2014年度以来5年ぶり。引率者と運転手を含む総勢28人の参加者は早朝、キャンパスから大田原市にある日光彫り有名な村上豊八商店へ。日光彫の職人が使用する「ひっかき刀」を用いた伝統工芸を、係の方の指導で体験するとともに、体験彫刻を施す素材「鏡」「デスクBOX」「写真立て」の3種類の中から、各々が選んで彫った作品を記念として持ち帰ることができた。とても充実したひと時となった。



●東照宮前駐車場で記念撮影



●村上豊八商店で日光彫体験



●各々の作品と記念撮影



●本家やまびこで昼食

「本家やまびこ」で日光そばの昼食をとった後、自由散策で「日光東照宮」を見学し、お土産を購入した。各自各々の楽しみ方での楽しみ方での日本のお古き伝統や雰囲気味わい、その経験と共有することで新たな友人を得ることもできた。この遠足は学科の垣根を超え、留学生同士、また国際関係の職員との交流が図れる貴重な機会であり、今後も継続して実施していきたい。(国際室 坂下和彦)

### ★ 第10回 留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

#### ホアン フック ティエン ホアンさん ベトナム出身 成田保健医療学部 言語聴覚学科3年



私は2015年の9月にホーチミン市医科大学の附属病院で理学療法士をしている兄が言語聴覚士という職業があること、また、日本に留学できる可能性があることを教えてくれました。私が子ども時代はや発達に興味があつたことを知っていたのだと思います。

そして翌年5月に、私は国際医療福祉大学の待機留学生として来日しました。当時は日本語をまったく喋れなかったのですが、時々1年生の授業に参加しながら、日本語教師の指導のもと、日本語の勉強に励みました。また、言語聴覚学科の先生方が授業の時間以外にも、日本語の特性分野別に指導してくれました。ことが理解できない、自分の思いを伝えられない、冗談を言うてみんなど笑っているのに自分はそれがわからない、などの経験を通して、「ことばの障害を持っている人はきつとこういう気持ちなのだろう」と思い、私も先生方のよ

うに、将来患者さんを支えたいという気持ちになりました。失語症の症状のひとつに、ひらがなやカタカナでは意味が理解できないのに、漢字だと理解できることがあります。一見、これは日本語特有の症状で、ベトナム語を話す人には関係のないことだと思ってしまうのですが、ひらがなやカタカナが「音」を表す文字、漢字が「意味」を表す文字としてとらえ直すとこの症状を理解できるかできないかは、使っている言語を超え、人の脳の共通した働きとして考えることができます。

来日して、なるべくさまざまな日本文化に触れるようにしています。着物を試着したり、温泉巡りも楽しんでいきます。また、同級生に誘われて本学の和太鼓部に入部しました。音楽に触れるのは初めてですが、「太鼓の音は難聴の人にも届きやすい音だ」と聞き、言語聴覚障害者の勉強にも役に立つのではないかと思つて始めました。



●国際交流パーティーで和太鼓を演奏するホアンさん

日本で言語聴覚士の資格がとれたら、何年間かは日本に滞在して臨床経験を積んだり、大学院で研究したりという道を描いています。そして、将来はベトナムに戻つて、言語聴覚士としてベトナムのリハビリに貢献できるようにしたいと思つています。

### ミャンマー大使館でアウンサン・スーチー氏を敬慕訪問

本学のミャンマー人留学生16人と教員1人が10月23日、前日の22日に行われた天皇陛下の「即位礼正殿の儀」に参列するため日本を訪れていたミャンマーのアウンサン・スーチー氏を敬慕訪問した。同大使館が「アウンサン・スーチー氏に敬意を込めて」として、在日ミャンマー人らを招いたもので、招待を受けた医学部のウー教授を通じて、留学生が参加できることになった。



●ミャンマー大使館前で記念撮影

この日出席したのは、成田キャンパスの医学部3年生、2年生、1年生、留学生別科各3人と大田原キャンパスの4人の計16人のミャンマー人留学生とティンタイ助教。他の在日ミャンマー人たちと一緒に、国家顧問と親しく懇談した。出席した留学生の1人は、「スーチー氏の言葉はいつも勇気づけられるものだが、今回のスピーチにも感銘を受けた。「ミャンマーにない技術などを日本で学び、ミャンマーで活かすように」とのメッセージがあった。留学を終えた後、母国に貢献したいというモチベーションが高まった」と感想を述べた。



(写真は駐日ミャンマー大使館提供)

### 第119回 大田原 キャンパスレポート

#### 園児に健康教育を実施

保健医療学部看護学科の学生有志が地域の子ども園や保育園に出向き、園児にからだのしくみを分かりやすく教える活動を始めた。3年次の小児看護学実習で学んだスキルを生かし、4年生有志が中心となり活動を行っている。今年度は4年生9人と大学院医療福祉学研究所修士課程保健医療学専攻1年生2人の計11人で「からだのヒミツおしえ隊」を結成した。



●こども園での健康教育の様子

た。参加した園児から「おえつてならないように良くかまなきや」「よくかんで胃のお仕事のお手伝いをしよう」という声が聞かれた。今後も市内の子ども園や保育園で活動を続けていく。

(看護学科助教 稲葉史子)

#### 第9回幸齢者スクール

大田原キャンパスで9月18日、「第9回幸齢者スクール」が開催され、事前申込のあった88人が参加した。

藤原和美大田原市副市長・大友邦学長の挨拶の後、言語聴覚学科・櫻岡絵里香先生による「脳活アクティビティ」が実施された。



●全体での「脳活アクティビティ」

体験学習では、全8学科による体力測定・漢方薬体験等の工夫した企画が行われた。参加者は2グループに分かれ、このうち4学科ずつを体験した。

閉校式では、大友学長から参加者に修了証が渡された。その後は、協賛企業3社による眼鏡、介護食、福祉車両の展示が行われ、盛況のうちに終了した。

(総務課 宇賀神祐貴)



●協賛企業「オグラ眼鏡店」による眼鏡の展示・試着

主催：大田原市・国際医療福祉大学  
後援：八溝山周辺地域定住自立圏推進協議会  
協賛：オグラ眼鏡店・株式会社療食サービス・ネットヨタ板木株式会社



●作業療法学科、学生と一緒に楽しく脳の体操



●看護学科体験にて、よさこいソーランを踊る参加者

学内の清掃に取り組んだ。クリーン作戦は、煙草のポイ捨て防止を目的として、14年度から始まった。大田原キャンパスでは11年度から、学内全面禁煙を実施しているが、敷地外の喫煙、ポイ捨てについても、注意喚起している。近年では、クリーン活動の幅を広げ、落ち葉や銀杏が大量に落下する構内道路を、風花祭前に清掃している。



●銀杏や落ち葉を掃除する学生

#### 2019年度クリーン作戦

学生委員会主催2019年度クリーン作戦が10月9日、大田原キャンパス内で行われた。気温が高く、日差しが強い中での作業となったが、全学科の学生と教職員有志が昼休みに集まり、

(学生課 齊藤智美)

### 第17回 成田 キャンパスレポート

#### ハンドボール部・陸上部が 好成績を収める

##### ■東医体で4位入賞 ハンドボール部

ハンドボール部は8月3～6日、東京都の新宿スポーツセンターで開催された「第62回東日本医科学生総合体育大会ハンドボール競技」に出場し、28大学中見事に4位に入賞した。多くの部員が未経験者のなかでスタートし、1年目の2017年は1回戦で敗退したチームが、創部3年目で快挙を達成した。



なお、松本駿さん(医学科3年)が敢闘賞に選出された。部長の渡辺啓元さん(同2年)は、「ほとんどが未経験者のチームにも関わらず、4位という快挙を収めたことを素直に喜んでいきます。しかし、この結果に満足せず、来年は優勝をめざして全員で一層練習に励みます」と話している。

##### ■陸上部は3人入賞 400Hは2位

陸上部は8月3～4日、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催された「第62回東日本医科学生総合体育大会陸上競技」で、米山蓮太郎さん(医学科1年)が400mハードルで2位に入るなど、3種目で3人(うち1人は2種目)が入賞した。



- ◇男子400mハードル  
2位 米山蓮太郎(医学科1年)
- ◇6位 井内翔稀(同2年)
- ◇男子走り幅跳び  
7位 米山蓮太郎(同1年)
- ◇男子3000m障害  
8位 中川大同(3年)

このほか、9月29日に群馬県前橋市の正田醤油スタジアム群馬で開催された「第36回関東医科大学対抗陸上競技大会」では、陸上部などから19人が出場し、3種目で6人(うち2人は2種目)が入賞した。



- ◇男子400mハードル  
3位 米山蓮太郎(医学科1年)
- ◇6位 井内翔稀(同2年)
- ◇女子走り高跳び  
4位 沢彩南(同2年)
- ◇5位 齋藤百華(理学療法学科1年)

#### 国立チヨライ病院の研修生が 成田キャンパスを視察

- ◇男子スウェーデンリレー  
8位 1走(1000m) 水戸川泰士(医学科3年)  
2走(200m) 田尻良登(同3年)  
3走(3000m) 米山蓮太郎(同1年)  
4走(4000m) 井内翔稀(同2年)

(広報 金井雅之)

ベトナムの国立チヨライ病院からの研修生4人が10月15日、視察のため成田キャンパスを訪れた。チヨライ病院とは20年以上にわたって医療人材交流を行っている。2018年9月には、本学との共同事業で、ホーチミン市内のチヨライ病院隣接地に、日本式の間ドックサービスを提供する健診施設(HECI)を開設した。



(広報 瀬谷直貴)

# 第5回 東京赤坂

キャンパスレポーター

## 江戸の歴史を感じた赤坂氷川祭

「地域との共生」を達成するため地域清掃をはじめとするボランティア活動をしている学生団体、赤坂同好会（顧問・高橋泰赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長、約50人）は9月13～15日、赤坂氷川神社が毎年開催している「赤坂氷川祭」に、昨年引き続き参加した。



13日の宵宮や神社隊列など山車の巡行に参加するとともに、子供神輿の指導、山車搬入を手伝った。15日の神幸祭巡行では、独特の衣装に身を包んだ女子学生が山車を先駆けて練り歩く「手古舞」を熱演。同神社を出発した「頼朝人形山車」「翁人形山車」「神武天皇大形山車」はTBS本社がある赤坂サカス広場に到着した。そこから、「頼朝」「翁」は別ルートで赤坂氷川神社に戻る一方、「神武天皇人形山車」はみすじ通りを通り、本学東京赤坂キャンパスに到着、正面のエントランスにある常設展示スペースに格納した。都心で江戸型山車の曳き回しをするのは同神社だけ。江戸の祭礼を厳かに再現した。



「神武天皇人形山車」は、赤坂田町三四五丁目町会が保存しているもので、明治時代前半に古川長延が製作、大正時代に村田正親、山本鉄之が修理したものとして推測されている。金鶏（とび）は光芒附で、弓は生木仕立、杵は藁束仕立て金箔捺し。鳳凰が止まる木として神聖視され、皇室のご紋に使われた桐が刺繍されている。大正天皇ご即位を祝して制作されたものと考えられ、奇跡的にほぼ完全な状態で残されている。

今回の祭で私が一番心に残っているのは、山車巡行が終わわり心身ともに疲弊しているときに見た、オレンジ色の提灯のもと地域の方々が盆踊りを踊る姿だった。新参者がベテランの踊りをまねし輪に溶け込んでいく姿を見て、江戸時代から続く祭の歴史を感じ、私たちがその一部に関われたことに感慨深い気持ちになった。今後も私たちは「赤坂氷川祭」をはじめとする地域での活動を行う中で地域貢献し、赤坂キャンパスと地域が共生していけるよう努めていきたい。

（心理学科2年 宮悠真）

同キャンパスは昨年4月の開設とともに、「頼朝人形山車」をエントランス展示場に常時展示したのち、昨年9月の例大祭では「頼朝」も学生たちの手で赤坂の街中を巡行、代わって「翁」が展示されていた。今回の「神武天皇」で3基目となる。



この研修は昨年にも続くもので、初日の9月24日は東京赤坂キャンパスでオリエンテーション、キャンパスツアーとして図書館や赤坂心理相談室などを見学した。その後、荒木田美香子教授の英語による日本の医療制度、看護や看護教育に関する講義を受け、カフェテリアで留学生を交えて昼食をとり、午後には山王病院を視察した。

## ナンヤンポリテクニクから2人が看護研修で来訪

海外保健福祉事情の研修先のひとつであるシンガポールのナンヤンポリテクニクの2人の看護学生、Catherine SeahさんとRania Krishnaさんが9月24日から10月4日の約2週間、インターンシップを本学（主な研修は栃木地区施設）で行った。Raniaさんは初来日。Catherineさんは4度目の来日とのこと、かなり日本通のようだ。



この研修は昨年にも続くもので、初日の9月24日は東京赤坂キャンパスでオリエンテーション、キャンパスツアーとして図書館や赤坂心理相談室などを見学した。その後、荒木田美香子教授の英語による日本の医療制度、看護や看護教育に関する講義を受け、カフェテリアで留学生を交えて昼食をとり、午後には山王病院を視察した。

（国際交流センター 野口陽子）

# 第50回 小田原

キャンパスレポーター

## ときめき国際学校受け入れ

小田原保健医療学部は10月2日、「ときめき国際学校」を受け入れた。「ときめき国際学校」は、小田原市の姉妹都市、オーストラリアのノーザンビーチ市との相互交流事業。その一環として2011年から、当学部で体験学習を行っている。



●エントランスで集合写真

今回はノーザンビーチ市から、20人の中高生が本学を訪れた。本学では、看護学科・作業療法学科共同で「高齢者体験十スクエアステップ」、理学療法学科で「歩容測定（動作解析）・低周波療法体験・パラフィンによる温熱療法体験」のプログラムを実施した。中高生は、2グループに分かれて体験学習した。

（学務課国際係 才木奎佑）

## 関連職種連携実習を実施

本学独自のカリキュラム「関連職種連携教育」は、医療福祉の臨床現場に不可欠な「チーム医療・チームケア」を、学部・学科の垣根を越えたチームで実践しながら学ぶ。その最終ステップとなる「関連職種連携実習」では、病院や福祉施設で実際の患者さんや利用者の方に対する治療計画の立案に関わっていく。医師や各職種が集うカンファレンスにも参加し、実際に基づいた「チーム医療・チームケア」を体験する。



●最終カンファレンスの様子

今年度も国際医療福祉大学熱海病院での実習を大田原キャンパス各学科の学生と行い、また新たに国立病院機構箱根病院での実習も加えて実施した。実習初日のコンセンサス実習からグループディスカッション、情報収集、サマリーの作成などを経て最終ケースカンファレンスに臨んだ。学生はお互いの立場や視点の違いを認識しつつ、自己の意見も述べ、チームとしての合意形成に至るプロセスを学んだ。それぞれの指導者から貴重なアドバイスをもらい、相互理解とコミュニケーションスキルの育成・医療職としての人間形成に大いに役立つ学習を経験した。

今後は実習体験を振り返り、関係職種間の連携について学んだ内容を整理し、連携をより推進するための課題を自分の言葉で述べ、それぞれの専門性を統合したアセスメントの実現ができるようになり、医療・福祉の現場でその能力を発揮してくれることを期待している。

（学務課 稲葉博之）

## 就職対策講座を開催

年々就職活動の時期が早期化している社会情勢を受け、小田原キャンパス看護学科では、例年2月に3年次生を対象に行っている「進路を考える会」と「関連病院説明会（看護職）」を、今年8月6日に行う「就職対策スタート講座（夏休み）」に合わせ実施した。



●PT・OT「合同就職対策スタート講座」

午前中に行った「就職対策スタート講座（夏休み）」では、担当講師が、中間報告として、2018年卒と19年卒それぞれの就職状況がどのように推移し今後予測されるのかスライドを使って説明した。また、これから冬に向けて自己分析と、午後からの「進路を考える会」や「関連病院説明会」を踏まえて、就職先の病院を調べる上での判断基準の方法論などを説明した。参加した学生は、「次は、いよいよ自分たちが就職活動をする順番がきた」と心に言い聞かせながら、担当者の話を真剣にメモをとりながら聞いていた。



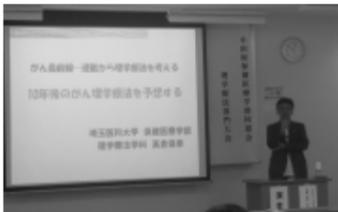
●看護学科対象「関連病院説明会」

一方、理学療法学科、作業療法学科では、2学科合同で9月5日、4年次生対象の「関連病院説明会（リハ職）」、25日には3年次生対象の「就職対策スタート講座（夏休み）」を実施した。理学療法学科、作業療法学科の学生たちは、それぞれの講座や説明会に参加したことで、これからの自分自身の就職活動の指針や方向性が見えてきたのではないだろうか。自身の目標が達成できるよう頑張ってもらいたい。

（学務課 今井清健）

## 第4回小田原保健医療学部同窓会理学療法部門大会開催

小田原キャンパス本校舎で9月29日、「がんの最前線―運動・栄養の観点から創造する理学療法―」をテーマに第4回小田原保健医療学部同窓会理学療法部門大会を開催した。特別講演では、埼玉医科大学の高倉保幸先生をお招きし、「10年後のがん理学療法を予想する」と題して在宅医療やリンパ浮腫等に関する最新の知見をもとにご講演いただいた。



●特別講演講師 高倉保幸先生（埼玉医科大学）

引き続き、大田原キャンパス3期生である田村外科病院の高橋浩平医師が「がんと栄養」がんに対する「ハピリテーション栄養」について理学療法を行う際のポイントを講演した。シンポジウムは「がんリハの実践―各大学病院の取り組み―」と題し、研究活動や勉強会、カンファレンスについて4人の先生方が登壇した。理学療法法の展開や情報共有の方法について積極的な質疑応答が展開された。来年も本大会が卒業教育の場となれば幸いである。



●シンポジウムの様子

（理学療法学科 和田三幸）

### 第42回 福岡 キャンパスレポート

#### 海外研修成果報告会

2019年度の海外研修成果報告会が8月22日、福岡キャンパスで開催された。今年度の海外研修は、13カ国、19地域に101人の学生が参加した。

帰国直後の学生たちは、研修先ごとに研修期間中のさまざまな写真を織り交ぜながらプレゼンテーション資料を作成した。また、活発なディスカッションとなるよう、パネルに発表資料を貼り付け、ポスターセッションの会場とした。

研修先の地理や文化、歴史、保健医療福祉の実情や異文化交流の様子、そして食事など、現地での体験を通して、日本との違いや共通点など、さまざまな気づきを得て帰国したようだ。学生たちが自信をもって堂々と発表している姿を見て、「たくましく成長して帰ってきた」という印象を受けた。

研修成果の評価は、学生1人ひとりもつともよくできていると思われたグループのパネルにシールを貼り、その数の多さを競うものとした。今年度の最優秀賞は、オーストラリアのTAFEケアンズで研修したグループだった。本報告会の運営でも、今年度から学生組織の1つである国際交流委員の3年生メンバーが会場準備や当日の司会進行を行った。次年度以降も学生たちの主体性を育てながら学びの共有ができる報告会となっていくよう願っている。

(国際交流小委員会 池田敏子)

#### 舞鶴園で健康教室

福岡市中央区の「福岡市立老人福祉センター舞鶴園」で9月3日、健康教室を実施した。舞鶴園は、同市在住の60歳以上の日常生活自立者を対象に運営されており、年間延べ7万人が利用している。

今回のテーマは「血管を鍛えて若さを保ちましょう」。①血管の病気について②血管について③血管をしなやかに保つことについて④の講義を行った後、家の中で空き時間を利用して活用し簡単にできる血管ほぐしの方法について演習を行った。

参加者は9割が女性。年代は70代の方が全体の5割、80代の方が4割を占め、スライドの内容をメモに取りながら熱心に受講されていた。

参加者からは「血管ほぐしを毎日続けていきたい」「血管を若返らせて健康に過ごしたい」「普段血管のことを考えていなかったが大切だと思えた」「具体的な方法を教えてもらえてよかった」などの感想が聞かれ、生涯学習の大切さや演習による教育の必要性を再認識する機会となった。

「もう少し時間をかけてほしい」「また一緒に学びたい」などの要望があり、今後、第2弾につなげていきたい。

(福岡看護学部 岩倉真由美)



●熱心に話を聞く参加者

#### 令和最初の 関連職種連携実習報告会

本学ではチーム医療・チームケアの実践をめざし、各キャンパスの学部・学科の学生が共に学ぶ、「関連職種連携教育」というオリジナル科目を展開している。福岡キャンパスでは2013年から大川キャンパスと5学科合同で開始され、2年次後期から座学で他職種を理解し、3年次前期で演習(事例検討)が行われる。それらを基礎に4年次に病院で関連職種連携の実習を学び、患者様への支援について検討する。

令和最初の実習となった今回は、大川キャンパス33人、福岡キャンパス12人の計45人の学生が8月19日から23日まで関連病院3カ所、6チームの混合編成で行った。

本年度の改善点は、実習前の多職種連携シミュレーション学修を導入し、学生間のチームビルディングの獲得をめざした。さらに実習では受け持った患者様からの情報提供やニーズに即したケアプランの検討を行い、連携協働の重要性など多くを学んでいる。

例年、関東地区と合同の報告会を開催していたが、本年度からは九州地区のみで合同の報告会を9月6日に開催した。6チームの発表で、各施設の実習指導者の意見、助言などをもらい、4年間の集大成となる実習まとめとなった。学生は報告会を通し、リフレクションを行い、他者との共有、関連職種における自己課題の発見ができたようだ。

当学科は5学科合同実習に加え、1週間の実習がプラスされ、2週間90時間の関連職



●緊張しながら発表する学生たち

#### 早良区健康まつりに参加

福岡看護学部がある福岡市早良区の「健康まつり」が10月10日開催され、本学も地域の方々の身体測定などを行った。福岡市では、毎年10月を「健康づくり月間」として定め、行政・企業・大学・団体などが連携し、各区分位で健康づくりに関する事業として「健康まつり」を開催している。

昨年に引き続き早良区の依頼で、本学の地域交流事業の一環として参加し、教員4人、事務部1人、学生6人がブースに出向き、骨密度測定や体組成の測定を行い、計測データを基に結果説明を行った。学生は計測と会場の誘導を担当し、順番を待つ人々と笑顔で会話を交わし、積極的に交流を深めていた。

来場者から「昨年の計測結果から生活を見直すようになった。数値が改善しているのが嬉しい」という声が聞かれた。本事業が地域住民の健康づくりへの意識付けの一環となっており、地域貢献の手こたえが感じられた。

(地域交流副委員長 辻奈美)



●順番を待つ参加者

### 第56回 大川 キャンパスレポート

#### 学内就職説明会

理学療法学科と言語聴覚学科を対象とする

「2019年度学内就職説明会」を9月9日、大川キャンパス講堂で開催した。今年度は、午前の部と午後の部合わせて70施設にご参加いただき、学生約110人が両部各5回、最大10施設のプロスをまわった。

本学の学生にとっては、一度に複数の病院施設の話聞くことができるという魅力があり、当日は、各ブースで熱心に説明に聞き入る学生の様子がうかがえた。病院施設の方からは、学生の参加態度に対して概ね高評価をいただき、本学の学生への期待の高さを感じることができた。

教職員一同、学生たちに素敵なご縁(就職先)があるよう祈っている。

(学生係 石井裕子)



●真剣に話を聞く学生たち

#### 防災訓練・AED講習会

恒例の防火・防災避難訓練を9月19日に行った。この訓練は、災害が発生した際に、学内にいる学生を教職員が安全な場所まで誘導し、有事の際に適切な避難が速やかに行えるように、毎年実施している。

今年度は、「教室で火災が発生した」とい

う想定で行った。火災報知器の発報と同時に、教職員で組織する自衛消防隊が火元を確認、初期消火を試みたが、「消火不能」と判断し、学生261人と教職員がグラウンドに避難した。全員の無事を確認し、避難完了の後、消防署員から消火器の操作方法や使用の際の注意点について説明を受け、代表学生数人が実技訓練を体験した。

訓練の総評・消防士による防災講話の後、各学科に分かれて救命講習を行った。この訓練では、本学保有のAEDシミュレーターと訓練用の人形を使用し、倒れている人への意識・呼吸の有無の確認の後、心臓マッサージとAEDの操作、人工呼吸までの一連の流れを救命救急士の指導のもと、参加した学生全員が実践した。将来、医療関係従事者をめざす本学学生にとつて有益な講習になったと思う。

(学生係 松永稔史)



●シミュレーターで訓練する学生たち

#### 海外研修報告会

本年度も夏期休暇中に海外研修が実施された。2019年度の大川キャンパスの海外研修は、8月1日の韓国(仁済(インジエ)大学校、ベトナム(ホーチミン)1班、マレーシア班)の発表を皮切りに、全13カ国、20の研修先で行われ、参加学生数は240人のぼった。

大川キャンパスでは10年度から、2年次の必修科目として実施しており、本年度も参加学生は世界各国で異なる文化に触れ、

医療福祉施設の見学実習、現地学生・医療スタッフとの文化交流(TOMODACHI HURI)を行い、それぞれ有意義な研修を過ごした。

韓国(仁済大学校)研修に参加した村井逸晟さん(理学療法学科2年)は、「韓国の医療事情に触れることはもちろん、海外から日本の医療の現状を見つめ直す、またとない機会となりました。渡航前は日韓の外交問題で不安もありましたが、仁済大学校の教職員の方々、そして学生の皆さんが週末の自由行動まで帯同してくれ、危険を一切感じることなく無事に研修を終えることができました」と研修の様子を語った。

あわせて村井さんは「冬には韓国の学生が研修生として大川キャンパスを来訪します。韓国で受けたおもてなしに少しでも応えられるよう、しっかりと準備をしたい」とも話した。派遣研修でお世話になるだけでなく、海外協定校の受入研修を通して、同じ医療職を志す学生同士が、国を跨いで交流を深め合えることも、本学が掲げる国際交流の特長の一つだ。



●特別登壇して文化紹介を行う別科のミャンマー留学生たち

本学は国際的センスを備え、いかなる国の人々ともびのびと協働できる真の国際人を育成することを目標にしている。今後、も研修中の安全管理に万全を期しつつ、国際性豊かな医療福祉の専門家育成のために取り組みしていきたい。

(国際係 杉原活郎)

#### 災害ボランティア活動

8月末の記録的な大雨で、佐賀県を中心に甚大な被害が発生した。被災された方々を支援するため、大川キャンパスの理学療法学科、作業療法学科の学生8人がこのほど、災害ボランティアに参加した。今回訪れたのは、佐賀市内の災害現場。洪水により庭先に流入した大量の土砂の撤去作業などにあたった。

留学生のクウ・イシンさん(理学療法学科1年)は、「世の中の役に立ちたい」と思い、今回の災害ボランティアに参加しました。支援センターの指示でおばあさんが住んでいる民家で作業をしました。庭には地面から30センチを超えるほど土砂が流入していました。シャベルで土をかき出し土嚢に詰めてトラックで運び出す作業は本当に重労働で、「これはおばあさんでは無理だ。自分たちが頑張らないといけない」と思いました」と当日の様子を語った。

また、クウさんは「災害はないに越したことはないけれど、また役に立てる機会があれば参加したい」とも話している。



●ボランティアに取り組む学生たち

本学では、たくさんの方が様々なボランティア活動に積極的に取り組んでいる。今後も地域の皆様のお役に立てるよう活動していきたい。

(学生係 松永稔史)

# IUHW Campuses School Festival

Fukuoka Campus 第11回 **蓮翔祭** 2019/10/12

新時代～人と人がつながる未来～



●大熱唱の教員と学生コラボチーム



●福祉施設からの出店



●軽音楽部によるオープニング演奏



●ダンスコンテスト



●医療器具当てクイズ

Okawa Campus 第15回 **月華祭** 2019/10/12～13

The New Generation～令和の幕開け～



●軽音ライブ



●ダンスステージ



●男女逆転ファッションショー



●木工まつりパレード



●屋台

大田原キャンパス「風花祭」、成田キャンパス「成翔祭」、小田原キャンパス「潮風祭」、東京赤坂キャンパス「茜陵祭」は台風のため中止になりました。

## 国際医療福祉大学成田病院



●建設が進む成田病院（10月撮影）

**世界のハブ病院をめざして 2020年4月、開院**

いよいよ医学部の本院となる国際医療福祉大学成田病院が来年4月、6つ目の本学附属病院として成田市に開院する。

最新の高度医療機器を備え、約40の診療科とともに、遺伝子診断、がん免疫療法など、先進医療を提供するセンターも設置して幅広い疾患に対応する。

**グループのインバウンドを牽引**

地域医療に貢献するとともに、成田国際空港に近接である地の利を生かし、国際的なハブ病院をめざす。多言語に対応した国際カウンターを設置して医療通訳を配置するなど、あらゆる国から患者様をお迎えする体制を整備する。

主にアジア地域の医療機関と連携して国際的な医療ニーズに対応していくが、1日最大2000人を受け入れる日本最大級の人間ドックセンターでは、海外からの受診者も積極的に受け入れる。2020年の年明けには、国際予約センターを開設すべく準備を進めており、国際医療福祉大学三田病院や山王病院、福岡山王病院なども連携しながらグループのインバウンドを牽引していく。

院内には、宗教スペースを設けるほか、ハラル食に代表される食の多様性への対応の準備も進行中だ。

## 職員宿舎・寮も完成



●アミティ成田I（右）とII（左）

9月にはすでに、病院のほぼ向かいに、宿舎・寮が竣工した。医師の宿舎となる「アミティ成田I」と、看護師ほかを対象とする職員寮の「アミティ成田II」。併せて370戸に対して入職予定の医師・看護師ほか医療従事者の入居希望が続々と集まっている。

## 地域医療ネットワーク構築も始動



●アミティ成田II中庭



●寮内に併設される保育室

一方病院各棟は、11月現在、外装がほぼ完成し、急ピッチで内装工事が進行中だ。多職種が円滑に協働するための各種先進システム導入や運用計画など業務環境の構築も、グループ最高レベルをめざして大詰めを迎えている。

竣工引き渡しは2月末。開院は4月1日で、記念式典を19日に開催。内覧会も予定している。式典・内覧会には本学と提携または交流のある各国から、ゆかりのある方々もお招きする。

また、当院開設の背景には当該地域の深刻な医師不足があり、本学医学部、およびその本院である成田病院の開院には、非常に大きな期待が寄せられているが、当院を中核とした地域医療ネットワークをいかにして構築していくか、地域医師会との具体的な協議も始まった。地域住民に対しては、4月26日に見学会を実施する予定だ。

（成田病院準備事務局）

**病院概要** 【開設予定】2020年4月 【病床数】642床 【診療科】40科（予定）  
【開設予定地】千葉県成田市畑ヶ田852 【延床面積】約105,513㎡

### 国際医療福祉大学病院

#### 「Takei ABI 2019」を開催

血管病の疾患、予防、治療法についての知識普及、生活習慣の見直しなどを提案するため、敬老の日の前日の「心・血管病予防デー」(一般社団法人日本心・血管病予防会が制定に)に合わせて当院が毎年行っている「Takei ABI」を、今年は9月22日に開催した。

当日は、血管外科部長の村上厚文教授による「全身血管病の診断と治療の進化」をテーマとした市民公開講座の開催と、血管外科医師臨床検査技師、看護師、リハビリスタッフ等の協力で、ABI検査を無料で提供した。

ABI検査とは、足と腕の血圧を同時に測定し、動脈の詰まり具合や血管のしなやかさを測り、血管の健康状態をチェックするもので、痛みもなく5分程度で終了する簡単な検査。ABI検査の無料体験は事前予約制で、①50歳～65歳未満で喫煙歴のある方または糖尿病の方②65歳以上の高齢者を対象とした。今回は、243人の方が検査を受けた。



●ABI検査を受ける参加者たち

参加者は、公開講座や検査測定以外にも、足のむくみを改善するマッサージ器具のデモンストレーションや健康体操なども体験できるため、熱心に取り組み、大変有意義なイベントとなった。



●市民公開講座の様子

今回の受賞は佐藤特別顧問の誉れであると同時に、我々病院メンバーの誉れでもある。今後とも、特別顧問の指導のもと、「優しく、安全で、安心なお産」をできる病院として、より一層、地域に貢献していきたい。

(総務課 慶野清美)

### 佐藤特別顧問に産科医療功労者 厚生労働大臣が表彰

当院の元病院長で、現在は特別顧問として主に後進の指導にあたっている佐藤都夫特別顧問が「令和元(2019)年度産科医療功労者」として厚生労働大臣から表彰された。

この制度は、長年にわたり地域の「お産」を支え、産科医療の推進に貢献してきた個人や医療機関等の団体を、都道府県知事の推薦で厚生労働大臣が表彰するもの。表彰式は9月9日、厚生労働省で行われ、表彰状と記念の盾が授与された。



盾には、医学の父・ヒポクラテスの横顔と、医師のシンボル・アスクレピオスの杖が配されている。当院の特徴的な施設の一つである「病院の中にある助産施設・ばーすはうすママ♥はーと」の立ち上げなど、医の道、とりわけ産科の道に尽くしてきた佐藤特別顧問の長年の功績が認められた。

### 国際医療福祉大学塩谷病院

#### 台風15号・19号による被災地に塩谷病院DMAT派遣

9月11日未明、台風15号で被災した千葉県に対し、当院のDMAT隊1チーム(医師1、看護師2、業務調整員2人)が出動した。病院所有救急車で午前3時に現地向かったのは、瀬雅典副院長、田代絃子看護師、高橋駿介看護師、長島雄二放射線室副主任、直井雅典薬剤部副主任の5人。印西市の日本医科大学千葉北総病院活動拠点本部に到着後、本部活動、避難所巡回、患者搬送支援などを2日間行い、無事帰還した。また、10月の台風19号による栃木県内の被災地にも4チーム延べ15人の隊員が出動し、浸水で機能廃絶した病院の患者避難搬送などで活躍した。



●千葉派遣DMAT隊(活動拠点本部にて)

### 災害拠点かつDMAT指定病院である当院には、日本DMAT隊員12人、栃木DMAT隊員8人がおり、厚生労働省の依頼に基づき県庁からの要請で災害支援に活動する。

昨今の災害頻発の中で、当院の災害医療に対する取り組みは県内で高く評価されており、今後も積極的な活動の継続を考えている。



●台風15号被災病院の患者搬送ミッション



●千葉日医北総病院活動拠点本部でのミーティング



●情報収集するDMAT隊員たち

(総務人事課 荒巻一恵)

### 国際医療福祉大学三田病院

#### 連携協議会に医師116人が参加

「国際医療福祉大学三田病院連携協議会」を9月2日、東京赤坂キャンパスで開催した。今年4月に着任した山田芳嗣新病院長を地域医療機関の先生方に紹介し、当院への理解と信頼を深め、連携をより強固なものにすることを目的に、79施設、116人の医師の方々に参加いただいた。



●多くの参加者でいっぱいになった講演会

第1部の講演会は、国際医療福祉大学宮崎勝副学長の挨拶で開会し、山田病院院長が「敗血症とARDS」、消化器センターの板野理センター長が「癌集学的治療における肝胆膵腹腔鏡手術の役割」について講演した。特大講義室を埋め尽くした参加者は熱心に耳を傾け、質疑応答も活発に行われ、熱気に包まれた講演会となった。

第2部の意見交換会は会場をカフェテリアに移し、国際医療福祉大学大友邦学長の挨拶で始まり、積極的な意見交換が行われた。会の途中では、各診療科部長、山王病院の紹介もなされた。



●活発に行われた意見交換会

(地域医療連携部 音丸秋子)

### 国際医療福祉大学熱海病院

#### 小中学生のための、ブラック・ジャックセミナーを開催

小中学生を対象にしたブラック・ジャックセミナーを9月21日、開催した。池田佳史病院長の発案で行ったもので、当院で学生向け体験型セミナーを開催するのは初めて。

参加した小中学生は6グループに分かれ、「救急救命体験」↓「手術縫合体験」↓「最新医療機器体験(超音波メス)」↓「内視鏡トレーニング体験」↓「アニメーション『外科医の1日』鑑賞」↓「自動吻合器、縫合器体験」の各ブースを順番にまわって体験した。

また、超音波メス体験では、鶏肉を使って、実際のメスの切れ具合を体験した。各ブースでは、外科系の先生方や看護師から直接指導を受け、児童・生徒たちは真剣な表情で取り組み、貴重な体験を楽しんでいる様子だった。



●真剣な表情の子どもたち

こうしたイベントを通して地域の子どもたちが医療への関心を高め、今後の進路選択の一助となるよう継続的に開催していきたい。

(総務課 中原正実)

### 国際医療福祉大学市川病院

#### 2019年度early exposure実習

本学医学部のearly exposure実習を7月23～25日と9月3～5日の各3日間行い、7月は3年生、9月は2年生が実習した。当日は全体講義とガイダンスのあと、各部署(手術室、5病棟、回復期リハ室、通所リハ室、検査室、放射線室、薬剤室、内視鏡室)で実習を行った。部署の担当者からは「積極さが感じられ、予測しなかった質問もあった」と学生の真摯な姿勢に高い評価があった。

実習を統括する津島健司医学部主任教授は「病院はさまざまな職種の協力が得られて運営が成り立っていることを実感してもらえたと思う」と講評した。

また、当院副院長の角田巨医学部主任教授は「医師の役割や医療の仕組みを理解し、医療スタッフとの適切なコミュニケーションの重要性を理解して今後に活かしてもらいたい」と述べた。



●実際の手術に立ち会う研修の様子

9月に手術室の実習で、実習生を指導した当院副院長の新井健医学部教授は「今回の実習をどういう医師になるのか、どういう医療を行うかなど、自身の理想を考えるうえで参考にしてもらいたい」と語った。

(総務人事課 細田幸生)

### 山王病院

#### 多岐にわたる薬剤部の仕事

順和会薬剤部は、診療科がバランスよく整った山王病院をはじめ、透析センターや予防医学センターを持つ山王メディカルセンター、お産に特化した山王パースセンターと、それぞれ特徴の異なる3つの施設の業務を担っている。中でも山王病院では、入院調剤のほか、1千人を超える外来で、医師が患者様に出した処方箋のほとんどを院内で調剤しており、服薬説明などの窓口業務も多数扱っている。多くの診療科の薬を扱ううえに、リプロダクションセンターやボイスセンターなど特色ある診療科もあるため、他の病院ではあまり使用しない薬品を製剤調剤している。

このような多岐にわたる、バリエーションに富んだ業務内容を現在29人(産休者パート1助手を含む)のスタッフで運営している。10月からは、齋藤勲薬剤部長が着任し、職員一同、日々楽しく協力しながら業務に励んでいる。

当薬剤部は、今年1月、日本医療薬学会認定薬剤師制度による研修施設に認定され、今後、後進の育成にも積極的に取り組んでいく。また、来年には赤坂キャンパスII期棟内に順和会が運営する健診センターやクリニックがオープン予定だ。今後ますます幅広い業務が求められるようになる順和会薬剤部に興味を持たれた方は、ぜひ一度当院に見学にお越しください。



●薬剤部スタッフ

(総務課 山本悦子)

# 海外 保健福祉事情



2019年度も夏季休暇中に約2週間の総合教育科目「海外保健福祉事情」が実施された。今年度夏季研修の渡航先は全15カ国22研修先で、700人以上の学生が参加した。渡航先により研修内容は若干異なるものの、参加学生は現地スタッフや引率教員のサポートのもと、現地の医療福祉施設の見学、現地学生および教職員との文化交流（MODACHI HOUR）、歴史的建造物や観光名所の見学等を行い、それぞれが学びが多い、有意義な研修となった。

今号では誌面の都合上8カ国10グループのレポートを紹介する。また、冬季研修では今年度初めてポーランドへ研修グループを派遣する。冬季研修参加学生は今後事前説明会や準備等で忙しくなるが、研修を心待ちにしているようだ。

（大田原キャンパス国際室 森島公美

## 中国 中国リハビリテーション研究センター

**伝統医学に触れる貴重な機会**  
薬学部 薬学科  
教授 三浦隆史

中国での研修は、大田原、成田、福岡キャンパスから18人の学生が参加して、北京市南部の中国リハビリテーション研究センターで行われた。作業療法、看護、薬剤の各部門に分かれて実施された研修の他、鍼や按摩など



●オープニングセレモニーで現地学生と

## 詳しく知れた途上国医療 福岡保健医療学部 作業療法学科 2年 小山僚太

今回インドネシア研修に参加して、日本とインドネシアの医療機関の違いを感じる事ができた。狂犬病やデング熱などの予防や治療を重点的に行っている場面が見受けられた。インドネシアでは近年、糖尿病になる人が増えてきている。それを改善するための予防教室があることを聞き驚いた。

また、発展途上国の医療について詳しく知ることができた。例えば、電子カルテではなく紙カルテであったり、機械の台数が少なかつたり、冷暖房設備が不十分だと思ふ場面を頻りに目撃した。そして、研修をするにあたって快く迎えていただいた現地の学生の方々、そして親切に対応いただいた先生方には大変感謝している。

の伝統的な中国医学に触れる貴重な機会もいただいた。また、書道や音楽を通しての日中交流、世界遺産の見学など、中身の濃いプログラムで充実した11日間を過ごさせてもらったことができた。研修に参加して、中国



●中国リハビリテーション研究センターにて

に対する印象が変わった学生も多かったと思う。実際に行ってみると、会ってみるの大切さを感じてくれたらしたら、引率教員としてこの上ない喜びである。

## 伝える意志で伝達できる

薬学部 薬学科  
2年 鎌田奈

8月3日から13日までの11日間にかけて行われた中国研修に参加した。私は主に病院内にある中医薬局で漢方について学んだ。薬局内には沢山の生薬があり、日本の薬局とは雰囲気も異なるため驚いた。天秤や圧力煎じ鍋などを見せられていただけでなく、実際に漢方薬を調剤するなど貴重な体験をすることができた。

初めての海外で言葉もわからないため不安だったが、薬剤師の先生方はスマホの翻訳アプリやジェスチャーを使い伝えようとしてくださった。言葉がわからなくても伝えようと思えばコミュニケーションは取れるのだと実感した。中国の医療文化、現地の方々との交流など様々なことを体験でき、とても実りのある実習だった。

## タイ クリスチャン大学

**高いコミュニケーション能力**  
福岡保健医療学部 言語聴覚学科  
講師 石川幸伸

タイ研修へは成田、大川、福岡キャンパスの学生40人と教員3人の計43人が参加した。内容は、タイ古式マッサージの体験、病院、エイズ寺院とPTクリニックの見学、タイの文化体験（ゾウ乗り、ナイトマーケット、水上マーケットなど）だった。



●バンコク国際病院見学時の集合写真

研修中はほぼ全て英語による説明やコミュニケーションが必要であり、研修開始当初は戸惑っていた学生であったが、研修先の先生や学生が高いコミュニケーション能力を有し、とても優しく接してくれたおかげで、最後には学生自ら話しかける場面もみられた。学生の成長を間近で見ることができ、引率教員としても有意義な時間を過ごせた。学生はこの経験を忘れずに大学の学びや実習に生かしてほしい。

## 台湾 元培医事科技大学

**体験型授業で楽しんで学修**  
福岡保健医療学部 理学療法学科  
2年 紫牟田彩夏



●張樹文先生「文化体験（陶芸体験）」後の集合写真

私達は8月4日から14日まで元培医事科技大学で研修を行った。研修内容は、病院見学や中国語の勉強のほか、台湾の厚生労働省や社会保障について学んだ。授業で印象的だったのが、「DNAをブロックに例えて並べていく」という授業だ。体験型の授業だったので楽しみながDNAについて学んだ。また、異文化交流として陶芸作りを体験した。言葉が通じない中で、学生同士で協力して作る事ができた。

台湾に行く前は言葉が通じるか不安だったが、しかし、現地の学生の方が気さくで、私たちの拙い中国語でもたくさんコミュニケーションをとってくれたので、楽しく研修を行うことができた。とてもいい思い出になった。

## 国を超えた友情芽生える

福岡保健医療学部 医学検査学科  
講師 安田聖子

8月4日から14日にかけて、成田、大川、福岡の3キャンパスから学生39人が台湾元培医事科技大学で研修を行った。研修では

## 「おもてなし」今後生かしたい 福岡保健医療学部 理学療法学科 2年 鍋川未来

今回、タイ研修に参加した学生のほとんどは初めての海外であり、研修当初は皆緊張していた。その緊張も現地の人たちからの「おもてなし」で和らいでいった。研修では現地の医療制度や社会状況を学び、文化体験もした。衛生状況や貧富の差が大きいことなど、解決すべき問題が多くある一方で、メディカルツーリズムを増やすことにより外貨を獲得するなど医療が産業の一つの柱になっていくことに驚いた。

## フィリピン フィリピン大学マニラ校 保健医療専門職に貴重な体験

成田看護学部 看護学科  
講師 根本友見

フィリピン大学（UP）マニラ校での研修では、大学付属病院クリニック、障害者施設の見学と各専門職に関する講義を通して、様々な視点からフィリピンの医療の現状を知ることができた。さらに、フィリピンの歴史や文化にも多く触れる機会に恵まれ、UPの教職員、学生ボランティアの方たち、各医療福祉

中国語や台湾の医療制度についての講義、病院見学のほか、伝統コマ回し・ディアボロ・陶芸文化体験などのアクティビティと充実した研修プログラムであった。研修中は台湾の学生ボランティアの手厚いサポートを受け、最終日には別れを惜しむ様子から、国を超えた友情が芽生えたことがうかがえた。途中で地震や台風に見舞われたが、多くの方々のご協力もあり、無事研修を終えることができた。本研修は、他国の医療事情を知ること、日本の医療を見返るきっかけとなり、学生の学びたいという意欲を掻き立てるよい機会となった。

## インドネシア ウダヤナ大学

**栄養失調、糖尿病の背景は？**  
福岡保健医療学部 言語聴覚学科  
助教 大内田博文

8月3日から13日の11日間で、インドネシアの海外保健福祉事情を学ぶ機会を得た。本研修はウダヤナ大学の学生会が企画したプログラムであり、当大学から6キャンパス6学科25人の学生が参加した。

デング熱や狂犬病、高山病など、日本では聞く機会が少ないレクチャーを受けられることができた。現地の病院見学では、診察を待つ患者さんが病院の外まであふれる光景や、疾病として栄養失調と糖尿病が多いという現状を目の当たりにし、経済格差が背景にあることを強く感じた。



●TOMODACHI HOUR後にUP Manilaの教職員・学生たちと

## 幅広い価値観得る貴重な体験 福岡保健医療学部 医学検査学科 2年 鋤崎愛稀

私は、フィリピンでの病院見学や医療施設での体験を通して日本とフィリピンの医療の様々な違いを感じた。日本にとどまらず世界の医療を知ること、医療人としての新たな考え方や、幅広い価値観を得ることができる貴重な体験であった。また、慣れない土地に約2週間の研修に行くことで多くのトラブルもあり、リーダーとして研修班をまとめる難しさや苦勞、その時に支えてくれる人の大切さを学び、自分自身、成長した部分も多くあるように感じる。

フィリピンの医療を学ぶことだけでなく、研修全体を通して共に行動する仲間との経験から学ぶことも多くあり、今後の学習・生活面での自分の行動に生かしていきたいと思っている。

★ ミャンマー

ヤンゴン看護大学 ヤンゴン医療技術大学

仏教国ミャンマーを知る

福岡国際医療福祉大学医療学部 作業療法学科 教授 菅原洋子

8月上旬のミャンマーは雨期であつたが、雨降りは1日のうち一時であり猛暑の日本と比較して過ごしやすいうい間だった。



●民族衣装の看護学生と「福笑い」を楽しむ

リハビリを総合的に実施している国立リハビリセンター病院では、院内に義肢装具棟があり、主に切断の患者に義肢作製と装着訓練を行っていた。また、2つの病院では患者に必ず家族が付き添い日常の世話のほとんどを家族が行っており、看護師の役割が限定されていた。

聴覚障害児の学校では、地方の子供は小学生から寮生活と聴き、人懐っこさのかけの寂しさを思った。老人施設には仏像が置いてある広い瞑想室があり、それぞれの中で文化の違いを感じた。医療や文化が違えども、学生たちは様々なゲームで大いに盛り上がりつつあった。

2国の違い比べ日本を学ぶ

成田看護学部 看護学科 2年 坂本真弥

ケアンズでは、ホームステイをすることで、現地の人々の温かさや生活様式を体験できた。また、毒ヘビによる噛み傷への応急処置の方法を学び、オーストラリアの医療の特徴も知ることができた。オーストラリアの一般的な高齢者施設とアボリジニの高齢者施設を訪問し、TOMODACHI HOURを通して触れ合ったことで、1つの国の中でも文化の違いがあることを学んだ。



また、罹りやすい病気の違いや新しい文化を強要しないなど、配慮する点が多くあることを知った。そして、患者様の対応をする際にはボディメカニクスを活用した看護用機器があり、医療者側の健康を重視していた。2つの国の医療の違いを比べたことで、日本も学ぶことがあると感じた。

異なる医療制度や診療体制

成田保健医療学部 理学療法学科 2年 石田美羽

私たちは8月3〜12日(10日間)の日程でミャンマーを訪問し、現地の医療機関や施設の視察、理学療法士などの医療専門職養成校の学生と交流した。医療機関の視察では、ヤンゴンにある国立の総合病院とリハビリテーション病院を訪問し、日本と異なる医療制度や診療体制を理解することができた。



●ミャンマー国立リハビリテーション病院での研修後の集合写真

また、本学が建設した研修センターで現地の看護師、理学療法士と医療事情についてグループディスカッションを行った。大学生との交流では、お互いの国の伝統的なダンスを披露し合い、とても充実した時間を過ごすことができた。週末には現地の学生と一緒に観光や買い物を楽しんだ。

★ オーストラリア

グリフィス大学

英語と人々との関わりで学ぶ

福岡看護学部 看護学科 教授 楠葉洋子

「グリフィス大学」での研修は、学生27人、引率教員2人の総勢29人で臨んだ。真夏の日本を出発し、到着地オーストラリアは「冬」。しかしながら日中の日差しは強かった。学生は、約10日間の英語ショートプログラムに参加した。

本研修の特徴は、ホストファミリーとのコミュニケーションから始まるオーストラリアでの生活、英語レッスン、病院や老人ホーム見学を含めた保健医療システムなどを、英語という言語と人々との関わりを通して学ぶことだった。研修中、体調を崩す学生はいたものの、自由にはつらつと研修に臨み、目的は概ね達成できた。多くの方々の協力を得ながら全員笑顔で日本の地を踏めたことに引率教員として安堵と喜びを感じている。

異なる考え方知り視野広がる

福岡保健医療学部 言語聴覚学科 2年 宮崎野乃

私たちは8月2日から14日の13日間、オーストラリアのグリフィス大学の研修に参加した。ケアセンターや病院見学では、患者様への充実したサービスの他にも、スタッフが働きやすい設備や環境が整っていることを知った。英語の授業やホームステイでは現地の英語に触れ、特にホームステ

★ オーストラリア

TAFEゴールドコースト

日本文化を見つめ直せた

小田原保健医療学部 理学療法学科 講師 前田佑輔

2019年夏のTAFEゴールドコーストには学生29人、教員2人が参加した。現地のプログラムは、英語のレッスン、Zing Home & Private Hospitalの訪問、TAFE内での実技研修、TOMODACHI HOURなどだった。日本とオーストラリアの違いに関して、G P (General Practitioner) 総合診療医)制度や、リフターによる移乗が一般的である点が印象的だったようだ。



●ドリームワールドでたくさんの楽しい体験をした

また、学生たちはホームステイを通して様々な方々と交流することができた。TOMODACHI HOURの中で、最近では日本でもあまり見ることのない二人羽織を実演し、ホストファミリーを楽しませていた。日本に関する出し物を準備する段階で、日本の文化を見つめ直すことができたのではないかと思う。

文化の違いにシビック

小田原保健医療学部 看護学科 2年 重田真暲

私はオーストラリアに行き、いくつかがカルチャーショックを受けた。家庭により多少の差イでは、オーストラリアの文化や生活を体験することができた。今回の経験を通して、他国の人の異なる意見や考えを知り、視野を広げるとともに、他国から見た日本を客観的に分析し日本の課題点を見つけることができ、非常に有意義な研修となった。この貴重な体験をさせてくださった全ての人に感謝したいと思う。



●ケアセンターで行ったTOMODACHI HOURの様子

★ イギリス

イースト・アングリア大学

主体的に通訳、質疑応答

福岡保健医療学部 作業療法学科 准教授 表昭浩

長距離飛行や昼夜逆転があるなど、体調管理に十分配慮が必要な日程の中、全員が協力し合い、日を増すごとに積極的な態度を表面化させる学生の数も多くなるほど大変に意義深い海外研修だった。英国医療専門職の役割や仕事に関心を持ち、日英の共通点や相違点を真摯に探ろうとする彼らの眼差しは真剣そのものだった。とりわけ、学生自らが主体的に通訳や質疑応答をしようとする姿勢には、引率者から見ると一定の成功と思われるも

異はあるが、洗濯が2週間に1回だった。入浴は湯船に浸からずシャワーで毎日済ます。人によっては毎日入らないというの珍しい。その国によって様々な文化の違いや生活様式の違いがあるのだということを感じた。看護とは患者の日常生活に沿って援助を行うことが基本である。研修を通して、日本において考えられる生活だけでなく、国によって様々な文化の違いがあることを理解し、援助を行わなければならないと感じた。また、自分が外国人になってみて、様々な場面での不安など外国人としての気持ち理解することができたため、今後に生かしたいと考えた。

★ オーストラリア

TAFEケアンズ

人種・文化・環境の違い学ぶ

福岡看護学部 看護学科 教授 篠崎克子

8月1〜14日、成田・小田原・福岡キャンパス26人の学生がTAFEの研修に参加した。7時間30分のフライト直後でも元気に研修していた。ヤラバーではアボリジニの人々が住む地域のaging care facility、その後オーストラリアの一般の人々のaging care facilityを見学した。しかし、施設や設備、雰囲気は全く違っていた。共に英語でコミュニケーションをとりながら積極的にactivityに参加した。この国の歴史文化、人種の違いなど様々なことを学んだ。医療を実践するには、対象者の背景や環境も視野にいれなくてはならない。この学びを、それぞれの職種の実践活動に生かしてほしい。

のがあり、頼もしさを感じた。最後に、こうした貴重な学びの経験をご提供くださったイースト・アングリア大学の関係者をはじめ、支援していただいた保護者、学校関係者の皆様に英国研修班を代表してお礼申し上げます。どうも有り難うございました。

最先端の医療福祉の現場を学ぶ

赤坂心理 医療福祉マネジメント学部 心理学科 2年 三好真央

自然に囲まれ、歴史的な建物を利用したキャンパスや最新の実習施設を兼ね備えるイースト・アングリア大学での研修は、とても有意義なものだった。またイギリスの医療制度や医療職について深く学ぶことができ、さらに自国の医療システムについて考える良い機会となった。研修で最も印象的だったのは、病院などの施設見学や実際に医療器具を用いての実習など身をもって体験できたことだ。また、これらの経験を通して医療の専門職が現場でどのような位置づけがなされているのかを理解することもできた。実際の現場を間近で見、その場の空気を肌で感じるという体験は、私にとって、「今後も学びたい」という思いを一層大きく、強くするものだった。



●UEA附属病院見学後、全員で集合写真を撮影、ハイポーズ!



**箏曲部 胡桃の会 (大田原キャンパス)**

大田原キャンパス「箏曲部 胡桃の会」です。「高校の部活で経験して大学でも続けたい」「初めてだけど弾いてみたい」と思った学生が集まり、週に1回楽しく活動しています。メインはお箏(こと)ですが、三味線も弾くことができます。地域のイベントや敬老会など様々な方から依頼をいただき、演奏するため日々練習を重ねています。お箏の技術を高めるだけではなく、礼儀や作法も学ぶことができます。部員みんなと合奏し音色がピタッとはまった時はとても感動します。お箏といえばゆったりとした曲調を思い浮かべる方が多いと思いますが、実際はスピード感のある激しい曲もたくさんあり、言い表せないほどの迫力を感じることができます。最近では「千本桜」や「春よ来い」などのポップス曲も演奏しています。

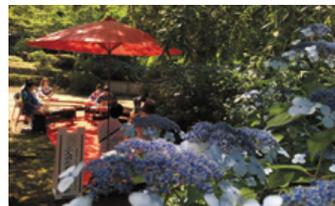
今年度は私たち箏曲部が主催した演奏会と、既に参加した5つのイベントのほか、今後4つのイベントへの参加を予定しています。この中からいくつか紹介します。

1月には国際医療福祉大学病院の新春コンサートから依頼をいただき、演奏させていただきました。外来患者さんや入院患者さんなど多くの方が聴きにきてくださいました。



●国際医療福祉大学病院新春コンサート

6月には大田原市黒羽城址公園で開催している「くろばね紫陽花まつり」に参加しました。2年前は開幕式で演奏させていただきましたが、昨年度から「2人のための演奏会」という形で、家族やグループで来た方に向けて演奏しています。今年是用意していた6曲の中から好きな曲を選んでいただいて披露しました。「この曲お箏で弾けるの?」と驚いていただいたり、「もっと聴きたい!」とおっしゃっていただいたり。子どもたちも口ずさんでくれ、演奏している私たちもとても嬉しくなりました。



●くろばね紫陽花まつり



●佐久山御殿山紅葉まつり

11月には大田原市の「佐久山御殿山紅葉まつり」に出演。この写真は去年のものですが、地元の茶道会がたてた抹茶を飲んでいる方たちの前で、毎年演奏しています。紅葉の下で清々しい気持ちで演奏することができます。出演終了後は、私たちも抹茶をいただいたり、出店を回ったりして、イベントを楽しんでいます。

かつて弾いたお箏や三味線をまた弾きたい方、お箏の漫画やアニメを見て「弾いてみたい」と思った方など、皆さんの入部をお待ちしています。

保健医療学部 理学療法学科3年  
箏曲部部長 三好彩加

**広報誌 IUHW 119号 発行：学校法人 国際医療福祉大学**

〔大田原キャンパス〕  
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000  
〔成田キャンパス〕  
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701  
〔東京赤坂キャンパス〕  
東京都港区赤坂4-1-26 ☎03-5574-3900  
〔小田原キャンパス〕  
神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕  
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805  
〔大川キャンパス〕  
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000  
編集：広報部 ☎03-5574-3828  
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

**国際医療福祉大学**

ホームページでもご覧いただけます。  
<https://www.iuhw.ac.jp/>